

中期計画

(2019～2024)

関西学院幼稚園

責任者名: 関西学院幼稚園長

各学校での承認

年月日

2023年9月22日

2024年3月1日

年 月 日

会議体名

教師会

教師会

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 教育の方針、人材育成 (簡条書きもしくは文章で)</p> <p>・教育方針 一人ひとりの子どもが、神さまと人に愛され、安心と信頼関係の中で喜びをもって生き、主体的に社会的に遊び、生活から、愛されている自分を感じ、生涯にわたる生き方の基礎を培い、私が私になっていくことを支える保育を実践し、キリスト教主義に基づく全人教育を行う</p> <p>幼稚園では“Mastery for Service”を体現する世界市民に育つよう、心の教育を大切する</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ひとりを大切に・友だちと共に・やってみたい、知りたい・神さまの恵みを知り感謝する・自分で考えて、行動する・外遊びの充実・喜びをもって、主体的に、共に <p>・人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・保育の振り返り(全体・学年・個人)・チーム保育のなかで他の教諭から学ぶ・研究課題、自己課題を見つけて取り組む・園内研修の充実・研修会への参加	<p><2024年度のありたい状態></p> <p>・教育方針 ・教育方針からぶれることのない、質の高いキリスト教主義に基づく教育・保育の実践</p> <p>・人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・質の高いキリスト教主義に基づく教育・保育実践のできる保育者の確保・研究的実践者の育成・学会で研究発表
<p>2. 志願者獲得の方針(簡条書きもしくは文章で)</p> <ul style="list-style-type: none">・保育方針・内容の理解 保護者、社会のニーズを把握しながらも本園のキリスト教主義に基づく保育を理解していただくようにする・園の様子を発信・募集エリアの拡大 幼稚園近隣だけでなく、夙川、芦屋、宝塚方面等、車で片道30分程度の地域まで募集エリアを拡大・未就園児を対象とした子育て支援活動の充実	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none">・3歳児 2クラス 60名・4歳児 3クラス 80名・5歳児 3クラス 80名・計220名の園児数を確保する
<p>3. 中期的な課題(簡条書きで)</p> <p><フェーズ2(2022～2024)></p> <ol style="list-style-type: none">1. 志願者の獲得2. 保護者との連携3. 保育者の確保4. 保育者の育成5. 保育環境の整備、充実6. 保育終了後の預かり保育を利用する保護者の増加7. 初等部との連携(学院一貫教育検討後、協議)	

8. 一人ひとり(個)と共に(集団)両方を意識した保育展開
 9. 併設学校教員との連携

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 志願者数の獲得	
③ 質の高いキリスト教主義に基づく教育・保育の実践、キリスト教主義に基づく教育・保育質向上のための研究	
④ 保育環境の整備、充実	
⑤ 保護者との連携	
⑥ 初等部との連携(学院一貫教育検討後、協議)	
⑦ 保育終了後の預かり保育を利用する保護者の増加	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- ① スクールモットーの認知度・共感度
 ② 3歳児の志願者数
 ③-1 キリスト教主義教育の実践度
 ③-2 キリスト教保育質向上
 ④ 保育環境の整備充実
 ⑤ 保護者との連携(満足度)

目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2024年3月末時点)

<p><1. 2023年度の中期計画の状況、課題></p> <p>◎園児の獲得 ・志願者の獲得のため、本園の教育・保育を理解していただくために、未就園児を対象とした、子育て支援活動の充実を図った。少人数で活動回数を増やすことで、本園の雰囲気を実際に感じ、キリスト教主義教育・保育で大切にしていることを理解していただくことができた。今年度は、2歳児を対象とした保育室内の環境を整え、活動の充実を図った。 ・本園周辺地域の未就園児の減少し、その上幼稚園希望者が減少している(保育園希望者が増えている)。 ・未就園児対象との子育て支援活動も募集エリアの拡大、そして、車での来園を検討する。 ・志願者獲得を考え、今後の幼稚園のあり方(幼稚園のままで預かり保育の充実・お弁当給食の開始、認定こども園に移行、幼稚園のままでクラス数を減らす)について、様々な視点で検討を始めている。</p> <p>◎キリスト教主義教育・保育の実践力の向上 ・本園の大切にしている「一人ひとりを大切に」「友だちと共に」をキーワードとし、教諭一人ひとりが、改めてキリスト教主義教育・保育の大切にしていることを意識し教育・保育を行った。 ・教諭全員での園内研修を行い、また、研修会、学会に参加した。 ・具体的な実践の学びを小グループで行い、経験年数の短い教諭のよき学びとなり、教育・保育実践生かすことができた。</p> <p>◎保護者との連携 ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、降園時に保護者と園児の幼稚園での様子、育ちについて細やかに話し合いをすることができた。また、保護者会活動も少しずつではあるが、活動の充実を図った。</p>

◎併設学校との連携

- ・併設している教育学部教員と連携し、実習生以外の学生の学びの機会を提供した。
- ・教員同士の連携が今後の課題である。

<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

- ◎教員自身の研究の環境・時間の確保、研修環境を整えていくことの必要性。
- ◎保護者とのコミュニケーションの充実。

<3. 上記1, 2を踏まえた2024年度以降に向けた展望>

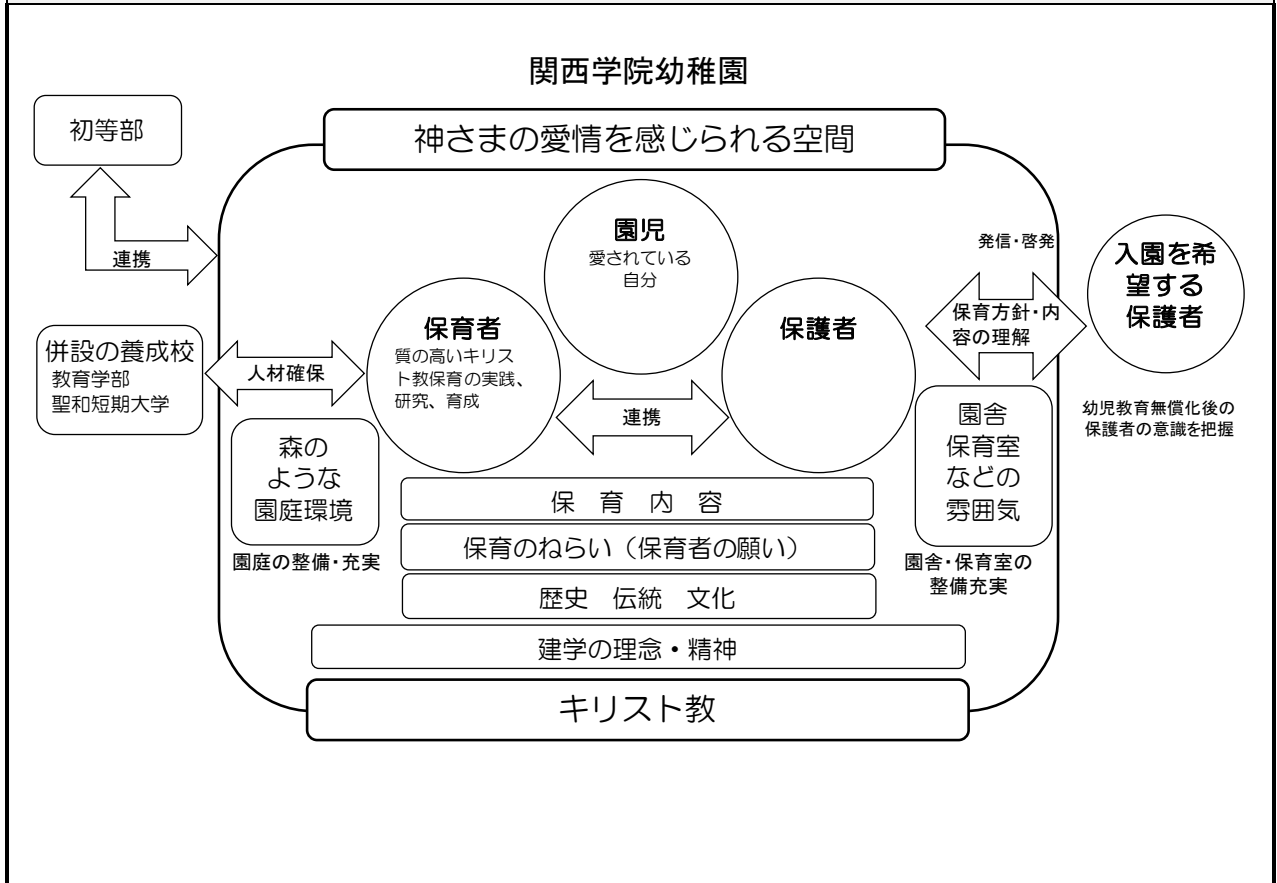
西宮市内の未就園の子どもの数は、将来推計からは減少、また、幼稚園入園率の減少、保育所需要率の増加傾向にある。その中で園児を獲得していくために、幼稚園のあり方を具体的に検討していく。①幼稚園のままで預かり保育の充実・お弁当給食の開始 ②認定こども園に移行 あるいは③幼稚園のままでクラス数を減らす 等である。園児獲得、教育・保育内容等のメリット、デメリットを検討していき、方向性を確定する。

キリスト教主義教育・保育の実践力の向上については、2023年度に引き続き教諭全員での園内研修を行うこと、特に具体的な実践の学びを小グループで行ったことは、経験年数の短い教諭のよき学びとなり、教育・保育実践生かすことができたので、その回数を増やしていきたい。

教員自身の研究の環境・時間の確保、研修環境を整えていくために、日常の中で教員の研修や学びの時間をどのように確保するのか、教員同士の共有方法や伝達方法等を具体的に検討する。また、各教員の研究や課題を共有し、お互いに研究を深めていける工夫を検討する。

保護者と教員が日常的に話をすることは、信頼関係を育て、コミュニケーションを円滑にとる上で、非常に大切な時である。2024年度も教員一人ひとりが保護者と直接話することができる機会を積極的に設けていきたい。保護者にとって園で過ごす園児の姿は目の届かない所での出来事であり、保護者の抱えている不安や相談には随時対応していく。

取り組みの全体像(イメージ)



以上